



公益財団法人
全国書美術振興会
会 報

第33号
平成28年4月1日発行
発行者 (公財)全国書美術振興会
編集責任者 坂本 敏 史
東京都港区赤坂 2-11-1
デルックス溜池山王 6 階
電 話 03-3568-2071
FAX 03-3568-2072
ホームページ <http://shobi.or.jp/>

題字は福島慎太郎初代理事長

「日本書道ユネスコ登録推進協議会」
が発足

「日本の書道文化」をユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の無形文化遺産に登録する目的で、「日本書道ユネスコ登録推進協議会」が平成27年4月4日に発足した。公益財団法人全国書美術振興会、公益社団法人全日本書道連盟、公益社団法人日本書芸院の3団体が発起団体となり、伝統ある日本の書道文化全体を伝承し保護するために、書道界を挙げての運動を開始した。



平成27年4月4日の協議会

「日本の書道文化、中でも仮名書道をユネスコの無形文化遺産に」とかねてより提唱していた井茂圭洞名誉顧問の呼びかけで、平成26年11月に高木聖鶴名誉顧問、日比野光鳳名誉顧問と連名で文化庁長官に要望書を提出したのが協議会発足のきっかけとなった。協議会会長に当振興会の荒船清彦会長、特別顧問に河村建夫書道国会議員連盟会長、松浦晃一郎第8代ユネスコ事務局長や各マスコミの代表者が就任し、事務局を当振興会内

に置くことになった。これまでに5回の協議会会議と3回の実務者会を経て、運動の方針やユネスコへの提案書のテーマを協議している。

芸能や社会的慣習、祭礼、伝統工芸技術などを対象とするユネスコの無形文化遺産は2003年にユネスコ総会で採択された。日本では2008年に能楽や人形浄瑠璃、歌舞伎が登録され、以後も国指定の重要無形文化財や重要無形民俗文化財が登録されてきた。しかし、国指定

文化財以外から初の申請案件「和食…日本人の伝統的な食文化」が選ばれ2013年に登録された。それ以来、国指定文化財以外から茶道、華道、和服、俳句、海女文化などの団体が現在登録を目指す動きを見せている。なお、「中国書道」と「中国篆刻芸術」は2009年に登録されている。

「日本の書道文化」
書き初めを特筆して

申請の名称として、運動開始時には日本の独創性を国際社会にアピールするために、「日本の書道文化—中でも仮名書道—」としていたが、ユネスコが審査時に最重要視する申請案件の社会的役割や社会的効果という観点から、文化庁の無形文化遺産アドバイザーの提言も反映させて、「日本の書道文化—書き初めを特筆して—」と改めた。

つなごう日本の書道文化
ユネスコの無形文化遺産に



無形文化遺産登録への道のりには、全国民を対象とした幅広い推進運動や保護措置運動など地道な活動が必要となる。当面

の登録目標を2020年秋とするが、日本国内、更にはユネスコ本部での厳しい審査もあり、運動は長い年月を要すると想定される。

今後、当協議会の登録推進運動が国内世論の支持を得ていることの証しとして「賛同団体署名」を募る。各県ごとに決められた書家の委員が中心になって、各自自治体や文化センター、学校などから賛同署名を集める。また、書き初めを始めとする書道文化の調査、ロゴマークやポスターの制作やホームページの開設などによる広報を通じて、「日本の書道文化」を次世代へつなげるための活動を展開し、この運動への幅広い理解と支援を求める。

〈協議会 役員一覧〉

特別顧問

河村建夫（衆議院議員、書道国会議員連盟会長）、松浦晃一郎（第8代ユネスコ事務局長）、朝比奈豊（毎日新聞社代表取締役社長、毎日書道会理事長）、老川祥一（読売新聞グループ本社取締役最高顧問兼主筆代理、読売書法会会長）、渡辺雅隆（朝日新聞社代表取締役社長、熊坂隆光（産経新聞社代表取締役社長、産経国際書会会長）、佐藤雄二郎（㈱共同通信社代表取締役社長）

顧問
高木聖鶴（文化勲章受章者）、
日比野光鳳（文化功労者、日本
芸術院会員）

会長

荒船清彦（全国書美術振興会会長）
副会長
井茂圭洞（日本芸術院会員）、
津金孝邦（全国書美術振興会理
事長）、樽本樹邨（全日本書道
連盟前理事長・顧問）星弘道
（全日本書道連盟理事長）、石飛
博光（全日本書道連盟副理事長）、
大井錦亭（全日本書道連盟顧問）、
田中鳳柳（全日本書道連盟顧問）、
吉川蕉仙（日本書芸院理事長）、
黒田賢一（日本書芸院副理事長）
総務部長
高木聖雨（全国書美術振興会理事）
委員
清水透石（全国書美術振興会理
事）、田中節山（全日本書道連
盟常務理事）、仲川恭司（全日
本書道連盟常務理事）、伊藤欣
石（全日本書道連盟理事）、辻
元大雲（全日本書道連盟理事兼
事務局長）、長野竹軒（全日本
書道連盟理事）、舟尾圭碩（日
本書芸院常務理事）
事務局長
坂本敏史（全国書美術振興会事
務局長）、松本薫（日本書芸院
事務所長）
（平成27年8月1日現在）

書写・書道教育推進協議会の活動報告

当振興会が構成団体に入っ
ている書写・書道教育推進協議会
（会長＝荒船清彦、事務局＝全
日本書道連盟内）は、これまで
平成25年6月、文部科学大臣と
中央教育審議会会長に「書写・書
道教育に関する要望書」を提出、
要望書の早期実現を目指す署名
活動を実施し、平成26年9月に
95万人に近い署名簿を文部科学
大臣に提出、平成27年2月には
文部科学省初等中等教育局長宛
に要望書の実現に向けた「具体的
内容」の要望書を提出するな
どの活動をしてきた。

構成団体の研究報告書

を確認している。

推進協議会の構成団体では以
下の3報告書を昨秋から今年初
にかけて制作した。協議会は報
告書制作費や研究授業の筆記具
の提供をしている。

全日本書写書道教育研究会の
小学校部会では、東京都内4校
で小学校低学年の研究授業を実
施。毛筆体験により、筆記具の
持ち方、筆圧、「はらい」や
「むすび」が正しくでき、集中
力が持続して姿勢も意識する児
童が多くなったなどの効果が確
認された。この報告書は文部科
学省初等中等教育局に提出され
た。今後、研究授業実施校を全
国に広げていく。

同中学校部会では書写教育に
関するアンケート調査を全国の
中学校に対して実施。252名
の教員、16643名の生徒か
ら回答を得ている。教員の指導
力として「毛筆技能」へのサポー
トが強く求められている実態や、
生徒の書写学習への興味、意欲
は10年前の調査と比較しても低
下していない一方で、中学校国
語科書写のメインとなる行書が

十分に習得できていないことなど
が分かった。この報告書も文部
科学省の同局に提出されている。

また、全国大学書写書道教育
学会では「手で文字を書くこと
の原理と文字を効果的に書くた
めの方法」の研究報告書をまとめた。
中教審の学習指導要領の改定
に向けて、各ワーキンググルー
プの協議が進行しているが、こ
れらの要望や報告書が実を結ぶ
ように活動を進めている。

■書写・書道教育に関する要望書（抜粋）

一、小学校においては、国語科
書写教育の一層の充実およ
び硬筆の基礎となる毛筆を
第一学年から取り上げ、文
字の成り立ちや筆順に触れ
ることなどから指導してい
ただきたい。また毛筆が授
業で確実に教えられるよう
に、学校への指導を徹底し
ていただきたい。

一、中学校においては、国語科
書写教育の一層の充実およ
び学習指導要領に示された
時間数を確実に実施してい
ただくとともに、とりわけ
毛筆による書写の学習等を

通じて、我が国の言語文化
の豊かさに触れるような実
践を強く要望していただ
きたい。

一、高等学校においては、書道
教育の一層の充実および我
が国の伝統文化の尊重とい
う視点に立って、芸術科書
道の科目の増単位を要望す
るとともに、生涯学習社会
における書道教育の一層の
充実という観点から各都道
府県教育委員会に書道教員
の採用拡充を求めている。
きたい。

■「書写・書道教育推進協議会」 （平成26年4月1日に発足）

【構成団体】公益社団法人全日
本書道連盟、公益財団法人
全国書美術振興会、全日本
書写書道教育研究会、全日
本高等学校書道教育研究会、
全国大学書写書道教育学会、
全国大学書道学会

【賛同団体】一般社団法人毎日
書道会、読売書法会、産経
国際書会、公益社団法人日
本書芸院、全日本書文化振
興連盟、全国書道高等学校
協議会

第43回「日本の書展」

関西展から九州展まで直轄4展の出品者総数は3476名、入場者数は15606名。今回から各直轄展の会場内で出品作家（当会役員）を講師として、1時間のギャラリートークを行った。作品解説に加え、出品作家のエピソードや展覧会場での作品の見方など、トーク内容も多様で大変好評だった。どのギャラリートークも80名程度の参加があり、新たな試みとして成功だった。

関西展

平成27年5月28日（木）
～5月31日（日）

会場 大阪国際会議場

主催（公財）全国書美術振興会・
産経新聞社

後援 文化庁

協賛（公社）日本書芸院

ギャラリートーク 5月31日

（日）午前11時～ 講師・山本高邨（かな・現代書壇代表）

出品数は、巨匠15点、代表77点（計92点が全展を巡回）、委嘱27点、招待370点、秀拔選



荒船清彦会長

589点、合計1078点、入場者数は約2100名だった。産経新聞紙面で展覧会紹介をしている。

会期初日の5月28日（木）、リーガロイヤルホテル「光琳の間」で約340名の出席による開幕祝賀会を行った。主催者を代表して荒船清彦会長からは「一昨年から海外展を復活し、国際文化交流に寄与。中教審の学習指導要領の改定に向けて、書写書道教育の充実を訴える要望書を文部科学省に提出し、その実現のために書写・書道教育



産経新聞社齋藤勉大阪代表

推進協議会を設立。また、日本の書道文化をユネスコの無形文化遺産に登録するために日本書道ユネスコ登録推進協議会が発足した。いずれも皆様のご支援をお願いしたい」と挨拶、産経新聞社齋藤勉専務取締役・大阪代表から「漢字離れ・毛筆離れが進む中、書道の再生のため新聞からも発信していく」と共催者挨拶があった。出品書家を代表して井茂圭洞名誉顧問からは「あらゆる団体が参加し、特に賞を選ぶわけではないこの書展は、鑑賞して大変楽しく、そしてレベルが高い。地方も含め13会場も巡回することはあり



井茂圭洞名誉顧問



三輪昭特命全権大使大阪担当

がたいことだ。書写書道教育の充実を図る協議会と、日本の書道文化をユネスコの無形文化遺産登録を目指す協議会が発足し、二つの大きな運動に全国書美術振興会が中心となっている。心より感謝申し上げる」との挨拶があり、特命全権大使関西担当三輪昭氏の「数年前までポルトガル大使だったが、ポルトガルは日本が初めて西洋とコンタクトを取った国であり、500年を経て、日本の書道の精髓の展覧会をリスボンで開催していただいたことに感謝申し上げる」との挨拶と乾杯の発声により祝宴に入った。



ギャラリートーク山本高邨評議員

中部展

平成27年6月3日（水）
～6月7日（日）

会場 愛知県美術館ギャラリ

（愛知芸術文化センター8階）
主催（公財）全国書美術振興会・
中日新聞社

後援 文化庁・愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市長・各県市教育委員会・東海テレビ放送

協賛（公社）中部日本書道会
ギャラリートーク 6月7日（日）午前11時～ 講師・鬼頭翔雲（漢字・現代書壇代表）

例年2会場で開催していた中部展は、愛知県美術館ギャラリーの1会場での開催となった。出品数は、巨匠、代表の92点、委嘱14点、招待165点、秀拔選536点、合計807点、会期中の入場者数は約3200名だった。



中日新聞社小山勇常任顧問



樽本樹邨顧問

中日新聞紙面での展覧会紹介、東海テレビ放送の放映があった。

6月3日（水）、名古屋東急ホテル「ヴェルサイユの間」で約310名の出席による開幕祝賀会を行った。荒船会長から主催者代表挨拶、中日新聞社小山勇常任顧問から「日本の芸術は用の美というか、日常生活の中に美しいものを作っていくという、日本人の美意識に育てられてきた。書も独自の美意識によって育ち継承されてきたものだ。名古屋をはじめとする中部は、書道の盛んなところ。この『日本の書展』を通じて書の振興のために全力を挙げて協力していく」と共催者挨拶があった。出品書家を代表して井茂圭洞名誉顧問が挨拶し、樽本樹邨顧問の乾杯の発声により祝宴に入った。



ギャラリートーク鬼頭翔雲評議員

東京展

平成27年6月11日（木）

～6月21日（日）

会場 国立新美術館

主催（公財）全国書美術振興会・

共同通信社

後援 文化庁

ギャラリートーク 6月13日

（土）午後2時～ 講師…清水

透石（かな・現代書壇代表）

ギャラリートーク 6月20日

（土）午後2時～ 講師…泉原

壽巖（漢字・現代書壇代表）

出品数は、巨匠、代表の92点、



衆議院議員・書道国会議員連盟会長河村建夫氏



衆議院議員・書道国会議員連盟会長代行塩谷立氏

委嘱34点、招待547点、秀拔選784点に加え、関西展、中部展、九州展の委嘱51点も同時に展示し、総展示数は1508点になった。入場者数は前年より増加し約8600名だった。

会期初日の6月11日（木）、

ホテルオークラ東京本館「平安の間」で開幕祝賀会を行い、約500名の出席があった。荒船会長の主催者挨拶に続いて、衆議院議員、書道国会議員連盟会長の河村建夫氏から「政治家に



共同通信社高井雅司代表取締役専務



ギャラリートーク清水透石理事

とって書道は大事なもので、閣議での署名は毛筆だ。書写・書道教育の充実のために95万人近く署名が昨年集まったが、この人数の重みは大きい。また、日本の書道をユネスコの無形文化遺産に登録しようという運動があるが、これも本格的に展開していきたいと思っている」と

来賓祝辞があり、衆議院議員、書道国会議員連盟会長代行の塩谷立氏から「伝統ある書道を皆さんとともに発展させていきたいと思います」と乾杯の発声があった。書道国会議員連盟からは事務局長の関芳弘氏の出席もあった。その後、共催の共同通信社高井雅司代表取締役専務から「第1回展から加盟新聞社とともに全国巡回展を開催しており、本展が日本の伝統文化を再認識するまたとない機会になると確信し



ギャラリートーク泉原壽巖評議員

ている」と挨拶、出品書家を代表して井茂圭洞名誉顧問の挨拶があった後祝宴に入った。

九州展

平成27年7月9日（木）

～7月14日（火）

会場 福岡アジア美術館

主催（公財）全国書美術振興会・

西日本新聞社

後援 文化庁

ギャラリートーク 7月12日

（土）午前11時～ 講師…岩田

海道（漢字・委嘱）

九州展の出品数は、巨匠、代表の92点、委嘱10点、招待116点、秀拔選192点、合計410点、会期中の入場者数は前年より300人増の約1800名だった。西日本新聞紙面で展覧会紹介をしている。

7月11日（土）、ホテルオークラ福岡「平安の間」で開幕祝賀会を行い約90名の出席があつ



津金孝邦理事長



ギャラリートーク岩田海道評議員



西日本新聞社柴田建哉取締役営業本部長

た。津金理事長、荒船会長から主催者挨拶、西日本新聞社柴田建哉取締役営業本部長から「会場作品を拝見して、この展覧会ではできるだけ多くの方に見ていただきたかった。メディアのいろんな手段を通じて、日本の書道文化を伝えていきたい。それが、ユネスコの無形文化遺産登録の一助になることを願う」との共催者挨拶があった。続いて書家を代表して井茂圭洞顧問



公募臨書（後期展示）

の挨拶、乾杯の発声により、祝宴に入った。

公募臨書（東京展会場内）

平成27年6月11日（木）

～6月21日（日）

会場 国立新美術館

書の基本である臨書に限った公募展も、今回で4回目となった。出品要項は、「日本の書展」直轄展、地方巡回展の会場をはじめ、全国の表具店、美術館・博物館、大学等に配布しているが、今回も全国から931点の応募があった。13名の当会役員審査員による厳正な審査が行われ、その中から441点が入選し、国立新美術館の「日本の書展」東京展の会場内に前期、後期に分けて展示された。表装された作品は、展示終了後、入選證と一緒に入選者に届けられた。

次回、第44回展の応募は平成27年10月末で締め切れ、平成28年1月21日に審査会が行われた。入選作品は、6月開催の東京展の会場内に展示される。

第43回

「日本の書展」巡回展

今回も「日本の書展」の直轄四展が終了後、現代書壇巨匠、代表の全作品92点が、当会と共同通信社、地元各新聞社の共催、文化庁後援のもと全国を巡回。地元の作家も出品し、各地それぞれ特徴ある展覧会を開催している。

第43回「日本の書展」巡回展は、次の日程にて全9会場で開催。

開催地（主催新聞社）・会期・会場の順

- 富山（北日本新聞社）
平成27年7月17日～7月20日
富山県民会館
- 松江（山陰中央新報社）
平成27年8月6日～8月10日
島根県立美術館
- 宇都宮（下野新聞社）
平成27年8月26日～8月30日
FKDショッピングモール宇都宮
宮インターパーク店
- 青森（東奥日報社）
平成27年9月10日～9月14日
青森市民美術展示館

○広島（中国新聞社）
平成27年10月1日～10月6日
福屋広島駅前店

○岡山（山陽新聞社）
平成27年10月14日～10月19日
天満屋岡山店 6階葦川会館

○奈良（奈良新聞社）
平成28年2月17日～2月21日
奈良県文化会館

○長野（信濃毎日新聞社）
平成28年3月4日～3月7日
長野県信濃美術館

○水戸（茨城新聞社）
平成28年4月9日～4月14日
茨城県立県民文化センター

展覧会案内

第44回「日本の書展」

関西展

平成28年5月27日（金）
～5月29日（日）

大阪国際会議場（3階イベントホール）
午前10時～午後5時「最終日は午後4時閉館」

主催 公益財団法人全国書美術振興会・産経新聞社

後援 文化庁

協賛 公益社団法人日本書芸院
ギャラリートーク 5月29日（日）午前11時～ 講師：土井汲泉（漢字・現代書壇代表）

中部展

平成28年5月31日（火）
～6月5日（日）

〈第1会場〉

現代書壇巨匠・現代書壇代表・委嘱・招待・秀拔選（おゝか）
愛知県美術館ギャラリー（愛知芸術文化センター8階）
午前10時～午後6時「5日（金）は午後8時閉館、最終日は午後4時閉館、入館は各日とも閉館30分前まで」
ギャラリートーク 6月4日（日）午後2時～ 講師：松下英風（漢字・委嘱）

〈第2会場〉

秀拔選（あゝえ・きゝわ）
名古屋博物館（3階ギャラリー）
午前9時30分～午後5時「最終日は午後3時閉館、入館は各日とも閉館30分前まで」
主催 公益財団法人全国書美術振興会・中日新聞社
後援 文化庁・愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市長・各県市教育委員会・東海テレビ放送
協賛 公益社団法人中部日本書道会

東京展

公募臨書

平成28年6月9日（木）
～6月19日（日）

〈14日（火）は休館日〉

国立新美術館（展示室1A・1B・1C・1D）
午前10時～午後6時「入館は午後5時30分まで」

主催 公益財団法人全国書美術振興会・共同通信社

後援 文化庁

ギャラリートーク 6月11日

（土）午後2時～ 講師：清水透石（かな・現代書壇代表）

ギャラリートーク 6月18日

（土）午後2時～ 講師：海野涛山（漢字・現代書壇代表）

九州展

平成28年7月14日（木）

～7月18日（月・祝）

福岡アジア美術館（7階企画ギャラリー／8階交流ギャラリー）

午前10時～午後8時「最終日は午後5時30分閉館、入館は各日とも閉館30分前まで」

主催 公益財団法人全国書美術振興会・西日本新聞社

後援 文化庁

ギャラリートーク 7月16日

（土）午後2時～ 講師：野田正行（かな・委嘱）

巡回展

現代書壇巨匠・代表の全作品が、当会と共同通信社、地元各新聞社の共催、文化庁後援のも

と全国を巡回。

開催地（地元新聞社）・会期・会場の順

富山（北日本新聞社）

平成28年7月21日～7月24日

富山県民会館

松江（山陰中央新報社）

平成28年8月26日～8月29日

米子市美術館

青森（東奥日報社）

平成28年9月8日～9月12日

青森市民美術展示館

広島（中国新聞社）

平成28年9月29日～10月4日

福屋広島駅前店

岡山（山陽新聞社）

平成28年10月12日～10月17日

天満屋岡山店 6階葦川会館

奈良（奈良新聞社）

平成29年2月22日～2月26日

奈良県文化会館

長野（信濃毎日新聞社）

平成29年3月3日～3月6日

長野県信濃美術館

水戸（茨城新聞社）

平成29年4月15日～4月20日

茨城県立県民文化センター

※開催情報は変更となる場合があります。

役員名簿

代表理事・会長

荒船 清彦

代表理事・理事長

津金 孝邦

業務執行理事・常務理事

新井 光風 石飛 博光

黒田 賢一 鈴木 春朝

星 弘道

理事

有岡 郊崖 市澤 静山

今村 桂山 大平 匡昭

岡田 契雪 師田 久子

清水 透石 高木 聖雨

田中 節山 内藤 富卿

仲川 恭司 真神 巍堂

横山 煌平

監事

角元 正燦 高木 厚人

永守 蒼穹

※任期 平成26年12月7日～平成28年12月開催予定の定時評議員会の終結時

評議員

明石 聴濤 石澤 桐雨

石永 甲峰 泉原 壽巖

○伊藤 一翔 井上 映粧

井之上南岳 ○今関 敏子

岩田 海道 岩永 栖邨

植松 龍祥 牛窪 梧十

海野 涛山 大澤 城山

○尾崎 蒼石 河野 隆

鬼頭 翔雲 ○笹原 宏之

霜鳥 秋則 ○杉本 新

○鈴木 響泉 田頭 一舟

土井 汲泉 中村 伸夫

西村 東軒 舟尾 圭碩

古谷 稔 松清 秀仙

松下 英風 宮負 丁香

○森上 光月 山中 翠谷

山根 互清 山本 高邨

○吉川美恵子 ○吉澤 大淳

吉澤 鐵之 ○吉田 成美

和中 簡堂

※任期 平成27年12月7日～平成31年12月開催の定時評議員会

※○印＝新任

名譽顧問

鈴木 勲 高木 聖鶴

古谷 蒼韻 日比野光鳳

井茂 圭洞

顧問

池田 桂鳳 梅原 清山

榎倉 香邨 ○大井 錦亭

尾崎 邑鵬 杭迫 柏樹

黒野 清宇 小山やす子

樽本 樹邨 ○中野 北溟

甫田 鶏川

参事

赤江 華城 飯高 和子

○石田 雲鶴 ○一色 白泉

○伊藤 溪泉 岩井 韻亭

植松 弘祥 江口 大象

○江幡 春涛 大河内仙嶽

大重 筠石 大西きくゑ

恩地 春洋 ○加藤 子華

貞政 少登 芝 松翠

師村 妙石 鈴木 一敬

鈴木 瑞之 辻元 邑園

土橋 靖子 中川 裕皓

中島 藍川 中林 露風

西村 天香 檜崎 華祥

藤岡 都逕 ○前島 泉洲

松塚 玲糸 松永 暘石

三神 榮軒 宮崎 葵光

近年物故者

次の先生方が逝去されました。
謹んで哀悼の意を表します。

加藤湘堂先生

（参事・現代書壇代表）

平成27年6月21日 92歳

犬養康彦氏

（名誉顧問）

平成27年7月12日 87歳

座馬井邨先生

（現代書壇代表）

平成27年8月21日 99歳

三岡天邑先生

（評議員・現代書壇代表）

平成27年12月7日 71歳

事務所のご案内

〒107-0052

東京都港区赤坂2-11-1デルッ

クス溜池山王6階

FAX.TEL. 03-3568-2071

03-3568-2072

ホームページ <http://shohi.or.jp/>

メールアドレス info@shohi.or.jp

（4月1日から事務所のビルの名前が変わりました）